

アーバン合宿 報告書

主催：小川健介

2002年 11/22～11/24

会場：八戸尾根・唐松岳

青川大尊山岳会 SAC

～モル～
行動記録 P1～P3
個人の反省文集 P4～P9
団体の反省文集 P10～P11

アーバン

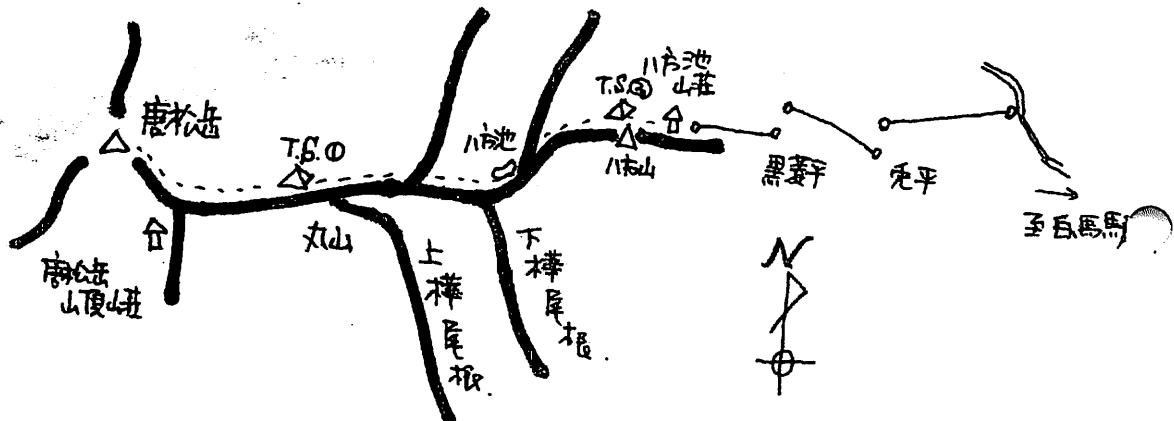
アーバン



山域：八方尾根 - 唐松岳。

メンバー：佐藤 祐樹 (3)	三森 武志 (1)
片寄 哲生 (2)	大橋 達也 (1)
高谷 英太郎 (2)	滝沢 輝佳 (1)

山域概要：



行動記録

11月22日(金)

5:00 BOX(部室)集合	12:10 丸山上部 T.S.
8:00 ゴンドラリフトアダム発	15:45 唐松岳山頂
9:00 アルペンリフト出発	17:00 T.S.着。
9:30 八方池山荘	
10:35 八方池	

去年R引き続き今年も新谷さんRみ世話をRなり。無料で八方池山荘直下までリフトR乗る。降りるとそこには一面のガス。うーん、いかしい。今日R天気がいいはずなのR....。と思つたが、じは"さく歩く"か"スガ晴れ、遠くかなたまで雲海が焼けている。展望最高!! 左手には鹿島槍が突き上げ、右手には白馬三山がどうしりと腰を降ろしている。まだ誰も歩いていない八方尾根RくきりとL-Sをつけていく。雪はそれほど積もっていない。快適Rラ!!

セルをこなしていく。予報より早く、早くテント場に到着。明日の天気があまりよくなないと予報で聞いているので、今日中のピストンを考える。1年生は「行けるか?」と聞くと「大丈夫です!」との頼もしい声。もし行こう。足早に設営し、出発。2610m, 2680m付近にFixを張る。2610mの方はさしてFixの必要ないが、たが、尾根が急にやせて少々恐い。2680mの方では岩稜を直登するか、左から巻いて行くか悩みだ。だが、雪崩の心配がかなりのままで巻いて行く方が早い。今回は巻いて行くが、Fixを通過し、Down・Upするとそこには山頂である。皆、大感激。1人・大感激。日が下りて、夜更けとなる。山頂に立ったのもわざめく、引き返す。明るいうちにテント場に到着で安心。

11月23日(土)

5:00	起床	11:00	八方池
6:00	ビーコン言川訓練	12:00	八方池山荘裏にて雪洞訓練
9:00	埋没言川訓練	14:30	雪洞にてビーバーク訓練
10:30	T.R. 出発		

今日は朝からビーコン言川訓練にて埋没体験。時間があるのでもう3回試してみる。ビーコンを2m近く埋めたときの反応状態、ビーコン2つ同時に採り言川訓練等。これらが終ると下山を開始する。今日は休日。下から人の列がどんどんせず、来る。上から見ると点でできた蛇のようである。もしくはアリの行列。113回聞かれる。「アイゼンありますかね?」「唐松山荘は営業しています?」「明日の天気は?」あまりの間答に疲れてきたところでテント場に着く。まだ時間があるのに雪洞を工廠みてみる。前々から試してみたが、たゞ横穴式である。試行錯誤のうえ、かなりコリとつた人だ。2時間程度で足をのばして寧

3000mができ3000mの大きさで雪洞ができます。今日分の雪洞で小走りに走郷。

11月24日(日)

6:00 起床

7:35 ハガ池山荘裏 B.P. 出発

8:15 アルペンリフト着

下山あるのみ。ゴンドラリフト場で春寂寥と熱唱。皆、声はでかいがオーナー。途中ハモ、217m。合唱訓練の必要性を感じた。

帰りに新谷さんから177m177mカンハイと温泉券と十郎の湯に入る。カンハイはオーナーのカレー屋・ホカラにてカレー食い放題で使わせてもらいました。最後にありがとうございました。新谷さん、本当にありがとうございました。

参考文献

雪山登山ルート集

山と渓谷社



アレ冬合宿の反省と感想

大橋 達也

今回の合宿ほど自分に腹立しさを感じたことはなかった。初めての冬山で慣れていないといふ部分もあるかもしれない。輪カン、アイゼンの脱着など、ことあるごとに時間がかかる。パーティーに迷惑をかけてしまった。それだけならまだしも、FIXロープを踏みそる余たり、基本的な技術面でかなり注意を受け、かなり叱られた。あたり前のことをあたり前のようにする、簡単なようで難しい。しかし、基本的技術や知識の積み重ねが自分の命を守り仲間の命を助けるのだと思う。今回学んだこと、反省しなければいけないと様々である。しかし吸収し、消化し、修正していかなければと思う。

山顶に立た時、思わず涙が出てた（後でみんなで冷やされたかい）あの言葉に現せなり感動を得るためにまた頑張りたいと思う。

手書きにてこだわって書いている。今の自分の気持ちを忘れないようにしたい。

本当の八方尾根

1年 滝澤 輝佳

前代未聞の10月末からの大雪で大学から見る北アルプスも真っ白、ひと月早い季節の進行に僕の胸は高鳴り、講義とアルバイトで超多忙な生活の中でも、良い緊張感とコンディションを保ってプレ冬を迎えた。僕はもともとスキーヤーなので白馬は何度も行っている。ペンションで住みこみの仕事もしていた。しかし今回はまったく心境が違う。遊びにではなく合宿でだ。そしてグレンデを遙かに超えて唐松岳のピークを目指そうというのである。

初日朝、厚い雲が後立山連峰を覆い尽くしていた。新谷さんに見送られ八方尾根スキー場のゴンドラに乗りこむ。さらに一本リフトを乗り継ぎ、いよいよワカンを履いて歩き出す。スネくらいのラッセル。ぜんぜん楽勝。ただやたら暑い。気合いで着込みすぎた。汗が目に入って痛い。好きな時に止まって服を脱げない合宿の不便さを感じる。八方池山荘の辺りで雲を抜けた。真っ青の空に突如現れた冬の後立山連峰に歓喜の雄たけびを上げる。すげー！やはり冬山だ！確信した。丸山の少し先でテントを張り、天候も非常に安定しているのでその日の内に唐松岳ピストン。山頂からの夕日もまたいい。

二日目、雲一つない完璧な快晴。早朝、長い間見たいと願っていた白馬三山の真っ赤な朝焼けをこんな所から見ることできるとは。余裕の日程でビーコン訓練、埋没訓練、テントを八方池山荘の裏に移し、雪洞堀り、夜は快適過ぎのいちおビバーク訓練。充実した訓練内容だった。特に埋没訓練は重要だと思う。1メートルくらい埋められて身動きが取れなくなる。おいおいまだ埋めるのかよ。息が苦しい。ゾンデが頭を突つつく。早くしてくれよ。1500M走なみに呼吸が激しい。早くしてくれ！けっこうパニック寸前。掘り出された時は、もう二度といやだと思った。絶対助けてもらえるという確信があつてもこれだ。実際に雪崩で埋没したら雪の下で冷静にしていられるだろうか？ビーコン訓練をもっとやらなくてはと痛切に感じた。助けられるものなら1秒、いや0.1秒でも早く発見して掘り出してやらなくては。また絶対に雪崩に巻き込まれないように注意しなくては。そう言う意味でも埋没訓練は貴重な体験だった。

3日目、今日も快晴。大気は安定し、さらに暖かい。下るのがなんだか惜しくなる。一人だけデポしていたスキーでグレンデを滑降。申し訳ないっす。2年ぶりだが、やっぱりスキーは楽しい。帰りに新谷クリニック近くの十郎の湯に寄る。合宿終了の充実感と相まって気持ち良い事この上なし。

これまで八方尾根はスキー場でしかなかった。しかしこの合宿で本当の八方尾根を見ることが出来た。その冬山の入門にもってこいのなだらかな尾根は僕らをやさしく歓迎してくれた。しかしあくまでこれは冬山の入り口、良い所どりに過ぎないのだろう。本番の冬合宿はもうすぐそこだ！この先にどんな苦しみ、寒さ、恐怖、悪臭？が待ち受けるのだろうか。友よ、それでも進もう、さらなる感動を求めて、さらなる高みへ、我らの高みへ！

新谷先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。

感想・反省

三森武志

プレ冬合宿の 2 週間前の有明山ではろくにラッセルもできず、散々な結果になってしまったので、出発前は隊に迷惑をかけないか不安だったけれど、1 日目は好天ということもあってバテを少しも気にすることなく歩けた。ラッセルに関しては前回よりもまともであったと思う。ビーコン訓練は何の問題もないと思ったけれど、埋没訓練をやる前と後とでは感じ方はぜんぜん違っていて、埋没のあの恐怖を思うとまだまだ遅いのだと実感させられた。このころから頭が痛くなりだして、この日の夕飯は少ししか食べられなかった。結局は風邪だったのだが、そのときは咳や熱がそれほどでなかったので風邪だとは思わなかつた。その後、数人がかりで雪洞を掘りその中で寝たが寒さはそれほど感じなかつた。終始天気が良く、快適の一言に尽きる合宿だった。

反省としては第一に、体調管理がいいかげんだった。プレ冬は 3 日間だけだったからなんとかなったものの、これが冬合宿だったら隊全体に迷惑をかけてしまう。今回は下から風邪のウィルスを持っていってしまったようなので、これからは山行の 1 週間前から体調には気をつけるようにしたい。次に山行中の体温調節がまだうまくできないことだ。尾根上で汗をかきすぎてしまって体が冷えることもしばしばあった。他にも雪をテント内にこぼしたり、雪の上に座ったりと濡れや冷えに対する認識の甘さが目立つた。後、テント内で次に何をしたらいいかわからなくなることがあったので、早く冬山の生活を覚えるようにしたい。

今回の合宿は冬山のいい面ばかりしか見てないので、冬合宿は想像以上に厳しいものになると思う。荷物も重く、日程も長いのでそれに耐えられる体力をつけて万全の体制で挑みたいと思う。



想像も及ばないほど拍子抜けした三日間だった。あんなに晴れわたるとは。美味しすぎた三日間だった。あれなら五竜まで行って遠見尾根下山だってできたなあ、と言ってもあるの祭り。それにしても、あんなんではプレ冬で全お天気運を使い果たしたみたいだから、冬合宿が恐い恐い。どうなることやら。

さて、ガスったらルーファイ要注意に八方尾根も、あのド快晴では何の問題もなく、ひたすらラッセルを続けるだけだった。しかも雪質は上々。大きな雪庇もできてはいない。初めての八方尾根、ガスった時を想像してはビビりつつひたすら前進した。

二年という立場で先頭を歩く場面が多かった。じぶん他あとに続くパーティーの安全を考えつつルートを選ぶのは初めてか。FIX隊として先発して危険個所を見極めるのも隊としての行動に大きく影響するものだと改めて実感した。この冬の上級生の人数には余裕がないことを思うと、冬合宿は迅速な判断を自分がしなければならないと気持ちが引き締まる。

唯一ガチンコ気味となった初日の唐松岳ピストン。振り返ってみて、あれくらいやっておいてよかったと思う一方、冬合宿では無茶はできないなとも思った。三日間の山行と一週間以上の山行ではやってよいことにも違いがあると思う。ましてやこの上級生の人数であるから決して無茶はできないことも痛感した。しかし、実際の冬合宿において三人の上級生でいかに事を進めるかという感覚の予行にもなった。ぜひ活かしたい。

あれで行けなきゃ冬なんて言語道断だ。決して冬は甘っちょろくない。よくよく自分に言い聞かせて臨もう。

フレ冬を終えて

2年 高谷 英太郎

今年のフレ冬は、天気に恵まれたとはいえる。自分達のトレスをつけ唐松に登り、ピーコン、墜落訓練もし、かりとこなし、初めての雪洞掘りも経験できたことを考えると、充実した合宿だ、大と言つて良いと思う。

個人的な課題を挙げると、体力を今以上につけること、FIのスピードを上げること、隊全体にも、と氣を配ることが挙げられる。今年の冬合宿は昨年と違い、2年生である自分が中止となる、7隊をひっぱらなくてはならない。そのことをし、かりと認識して、熱い心を持、7冬山に挑んでいきたい。

コーナーヘルメット 裝着図



フレ冬反省・感想

冬合宿に向けて

3年. 佐藤 茂樹.

SAC会員皆R望み。常に食えR姿勢でいい。
今回の合宿、皆体力がついてきていることR感じた。
各自が日々の生活をされてやられてきて自主トレーニングが
実を結んできていいとかうれしく思えた。しかし、この結果
R納得にはいかない。全行程ほぼ快晴という好
条件の中での自分の本領を發揮していくことも言え
ない。自分真価が問われるの日最悪の次第下の
時である。今回の結果に満足せずに、さらなる高み
へとステップアップしてほしい。これは体力を"ケガ"なく
登る等可べてR言えることである。これが"できたら"
次はこれが"できたら"。というより自分を
人と人高めてもらいたい。新しい高みへ立,
たとき今まで新登り高みが見え、乗り越えときの喜
びもどんどん増していくところ。

冬合宿R向けてさらなる4カラをつけたい。

駄文



エッセンの反省 2年 高谷 英太郎

- 量を考える(汁2杯位)
- 緑茶と紅茶の区別がつくようとする。
- 料理にあた乾物にする。
- ペミカニの肉は細かく切らない。
- ペミカニの肉の種類を豊富に。
- レシヨン 150円/人では多すぎる。
- ご飯のクリップはやはり便利。
- お茶の温度はぬるい位で十分。

海外の反省

会計
収入 42000円(合宿費 7000円×6人)

支出

食費	24438円	42000円
装備費	5249円	-31687円
交通費	2000円	+10313円
合計	31687円	

リフト・コントラ代がかからない場合、今回の合宿費7000円は妥当、もしくは少し高いくと考えられる。

- サル等高価な装備を購入する場合、合宿費からだすのが会計からだすのか考える必要がある。
- 交通費は、車前で車を出してくれる人に渡す。
- 残金は、冬合宿にまわす。

TAXI

*今年も、昨年に引き続き新谷さんにリフト・コントラを手配してもらいた。新谷さんどうもありがとうございました。

プレ冬合宿係の反省

- 装備
- ・ MSR のチェックはしつこい位に(火力のあるものを)、なおゴムにグリスを塗っていくこと。
 - ・ 内張りは必ず張ってからいくべし。その際に内張りホルダーやファスナーのチェックも済ませること。
 - ・ 張り綱がすべてついているか確認する。
 - ・ スノーソー、デッドマン、スノーバーにはビナを添えておくこと。
 - ・ ブス板はペニヤの薄いものにしっかりとアルミを張っていくこと。
 - ・ ボトルを覆う銀板(鍋全体を包めるもの)と MSR 本体を覆う銀板とを必ず用意。
 - ・ 自ガスは 100ml/人、予備は 70ml/人が目安。
 - ・ ロープは 7mm50m×2 + 8mm30m×1
 - ・ スリングは、冬合宿の確信部の想定、そしてプレ冬の FIX の経験からしても軽めの腰紐が多くあった方がよほどよい。短いものは役に立たないだろう。
 - ・ 同じ重さになるならヒトンよりもナットのほうがきめやすいのではないか?
 - ・ ロープが多少増えても、支点自体とれない訳だから、ビナを増やす必要はないか。
 - ・ のこぎりの用途が疑問
 - ・ 竹ベグの袋や、万能ヘンチ・鋸・予備ボールをまとめた袋は、大して大きくならず紛失する危険があるため一緒にする。
- 医療
- ・ 医療リストを作る。
 - ・ ビタミン剤(主に各自任せだが)、風邪薬、凍傷対策軟膏などを中心に揃えれば。
- 気象
- ・ 週間天気予報、高層気象予報、雲の画像など、事前に収集して全員に提示する。

